

1. 協会としての主な取組

○第26回日本認知症グループホーム全国大会

- ・令和7年12月3日、4日開催（神戸国際会議場）1,260名参加
- ・「グループホームの輝く未来をえがこう！ ～認知症基本法とともに～」をテーマに開催

【主なプログラム】

- ・教育講演「認知症になってからのセカンドストーリー」

【講師】一般社団法人セカンド・ストーリー代表理事・高知家希望大使（認知症本人大使） 山中 しのぶ 氏

【活動パートナー】有限会社青い鳥 グループホームひよし施設長 中山 厚志 氏

- ・シンポジウム「認知症基本法を踏まえたグループホーム役割

～認知症にやさしい町・共生社会を目指す神戸モデルの挑戦～」

【座長】かきぎしあわせクリニック 院長 柿木 達也 氏

【シンポジスト】くじめ内科 院長 久次米 健一 氏

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 特命教授 前田 潔 氏

認知症介護研究・研修東京センター センター長 栗田 主一 氏

- ・分科会・ポスターセッション（104演題）

* 入居者が有償ボランティアとして、大和橘の加工（皮むき・選別・乾燥・粉末化）からお香の製作まで、各工程を分担。完成した製品を若年性認知症サポートセンターと連携して販売した事例

* 地元の小学校との学福連携により、「ともにつくる作品展」を相互開催。世代間の交流を促進した事例

* 社協などの作品展示会への出品、参加や、交通安全パトロール、地域清掃、防災訓練への参加のほか、モーニング（朝カフェ）の運営（案内・調理・接客）や、近隣施設での「みんなの食堂」における受付業務を担うなど、入居者の社会参加と共生社会の実現に向けた取組を行った事例 など

○グループホーム認知症施策検討特別委員会の設置

- 認知症基本法が目指す共生社会の実現に向け、地域共生社会において認知症グループホームが果たす役割・機能を整理し、今後の認知症施策に関する政策提言を検討する。

【相談役】社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター
センター長 栗田 圭一 氏

【委員長】社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター
副センター長代理兼研究部長 中村 考一 氏

【現在の主な取組】

- 当協会と認知症介護研究・研修東京センターとの共同研究
「認知症の人のwell-beingにつながる活動の内容と構造
—グループホームに勤務する実践家の語りに基づく質的内容分析—」を実施
- 令和8年8月、フォーカスグループディスカッションを実施
- 活動とwell-beingとの関係・条件を整理し、グループホームの役割・機能の検討につなげる。

2. 会員事業所における具体的な取組

○若年性認知症を有する方の就労支援

(医療法人活人会 高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう)

◆対象者 60歳 女性 若年性アルツハイマー型認知症

※保育士として勤めていたが、58歳で若年性アルツハイマー型認知症を発症。定年(60歳)まで、保育園勤務は勤め上げる。定年退職後、10社以上スーパーなど求人面接をおこなったが、認知症を理由に不採用。地域包括支援センターより、横浜市若年性認知症支援コーディネーターに就労相談があり、横浜ゆうゆうを紹介される。

◆職種及び入職月:介護補助職員、2022年8月

◆勤務時間:週3日 9:00~18:00(休憩1時間)

◆通勤:私鉄及び法人送迎バスを活用(自宅より約1時間)

◆勤務内容:介護補助

- ・介護職員見守りのもと、散歩時の付き添いや、車椅子を押していただくなど。
- ・入居者との交流(話し相手、アクティビティ、散歩付添い)。元、保育士だったので得意分野
- ・台所、掃除、洗濯など家事全般。

◆経過及び結果

- ・ 当初は業務内容を覚えるのに苦労していたが、他の職員が単語帳に業務内容を順番に記すことで、確認をしながら、業務を遂行。慣れてくると、単語帳も見なくても、業務を遂行できるようになる(単語帳はお守りで常に持参)。
- ・ 送迎バス乗り場なども、当初は覚えられなかったが、スマホのカメラ機能などを活用し、写真により乗り場をインプットしていた。
- ・ 運営推進会議にも参加し、地域の民生委員などと話し合いもおこなった。
- ・ 地域や専門職向けの認知症研修会講師にも呼ばれるようになり、横浜ゆうゆう管理者や、若年性認知症支援コーディネーターと共に、研修講師を努めた。小学生への認知症サポーター養成講座なども大好評だった。
- ・ 2026年3月まで約3年半勤務をされる。認知症の進行やご家庭の事情などで退職されるも、退職後も働きたい意欲はあったため、若年性認知症支援コーディネーターとカンファレンスを重ね、家の近所の就労支援事業所Bへ転職した。

◆考察

- ・ 本人が良く口にしていたのは、「認知症の事をよく理解してくれている職員がいて、とても心強いし、安心して働ける」「働ける、人の役に立つのは生き甲斐」。
- ⇒ グループホームにおける就労支援のような環境条件があると、認知症を有していても、安心して働ける機会が作れると考える。

◆課題

- ・ 小規模事業所だけに、人件費の捻出は課題。障害者雇用制度など、助成金などを使える仕組みが増えることを期待したい。